

○国語科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和元年度授業改善プラン 入新井第一小学校）

\*令和元年度の改善プランの検証

主体的に学習に取り組む態度としては、発問の工夫や友達との協働的な学習を取り入れることで、自分の考えを発表しようとする態度が多く見られている。今後も発問を意図的に組み込んだり、発言やノートの評価を細やかに行い、授業での発言の力を高める指導を実施していく。学習効果測定の結果より、漢字の読みができる児童が多いことに対し、正しい漢字を書くことに課題が見られた。今後も既習漢字を進んで使うよう指導したり、辞典を引く習慣を身に付けられるよう声掛けをしたり、日頃の書く活動の中で正しい漢字や言葉を活用していけるようにする必要がある。また、相手の意図を考えながら聞いたり、話し合いの内容を正しく聞き取ったりすることにも課題がある。国語のみならず、他教科や日常の活動の中で、話を最後まで聞く姿勢やメモの取り方などが身に付いていくように指導を続ける。書くことについては、作文の書き方を理解している児童が多い反面、話し合いをもとに活動報告を書き直すことに課題が見られた。必要な情報を得るために要点を絞って聞くと共に、理解したことを順序立てて書いたり、どんな文が分かりやすいのかを伝え合ったりする活動を通し、文章を書きながら推敲していく力を身に付けさせたい。

\*令和2年度の改善プラン

| 観点    | 児童の実態（今回の調査における分析を含む） | 明らかになった課題  | 具体的な授業改善案  |   |
|-------|-----------------------|--|--|---|
| 知識・技能 | 一年                    | 平仮名や片仮名、漢字の学習に対して意欲的に取り組んでいる。習った漢字を文章中に積極的に使おうとする様子も見られる。日々の出来事等を作文に書き表す時に、小さく書く文字を正しく使うことに個人差が見られる。                   | 片仮名の読み方は定着しているが、正しい形で書いたり、文章の中で書いたりすることが定着していない。<br>漢字では、文字の意味に合った使い方ができないことがあるので、いろいろな言葉を知る必要がある。               | いろいろな言葉を学ぶ学習で、片仮名で書ける言葉を見つける学習を継続する。<br>漢字学習で字形を整えて丁寧に書くことを指導し、漢字を使った言葉も指導していく。   |
|       | 二年                    | ・新出漢字の言葉集めでは、自分の知っている言葉を発表しようとする意欲的である。しかし、習得すべき漢字の量が増えたこともあり、定着が難しい。<br>・原稿用紙の使い方（文頭は一ます下げる、かぎかっこなど）の定着度合いには個人差が見られる。 | ・漢字が定着していないため、既習漢字を普段の学習の中で用いることに難しさを感じている児童が多い。<br>・文章中の拗音や促音、カタカナなどの正しい使い方の理解や定着が課題である。                        | ・ドリルを繰り返し用いて練習したり、ミニテストを実施したりして漢字の定着を図る。<br>・日記の宿題や、中程度の長さの作文において、順序立てた書き方をその都度指導する。「」を使った会話文の書き方や、適切な句読点の打ち方なども理解させていく。<br>・国語以外の学習においても、言葉の正しい使い方を指導する。 |
|       | 三年                    | ・新出漢字の学習は意欲的に取り組む児童が多い。しかし、定着せずに先へ進んでしまっているため、文字を書くときに既習漢字を使えていない児童が多い。<br>・カタカナで表す言葉が定着していない児童が見られる。                  | ・漢字の学習以外では、既習漢字ではなく平仮名で書いてしまう児童や、文字の字形を「とめ、はね、はらい」などの細かな注意点を意識して書くことが難しい児童がいる。<br>・語彙が少ないため、別の言い方や書き方ができない児童がいる。 | ・漢字の指導の徹底をし、部首や熟語、使われ方を国語辞典も活用しながら、意味を理解させる。漢字ミニテストを頻繁に行い、習熟を目指す。<br>・書いた文章を音読して読み返したり、友達と読み合ったりする活動を通し、正しい使い方を理解する機会をもたせる。                               |
|       | 四年                    | ・字を正しく丁寧に書くという意識が低く、漢字の定着も遅い。文章を正しく書くことができない児童も多々いる。   | ・字を書く際にえんぴつを正しく持つことができない児童が多い。そのため力を入れて書くことができず、「とめ」が定着しない。<br>・語彙が少ないうえに、文章の正しい書き方が定着していないため、作文や詩の作成ができない。      | ・漢字の指導の徹底をし、とめ・はね・はらいをより意識して書くように指導する。また、丁寧に書くという意識を定着させていく。<br>・日記を通して、文章の書き方を指導し、自分の気持ちを書くことによって言葉での表現ができるようにしていく。                                      |
|       | 五年                    | ・知識・理解面も話す聞く書くの技能面も区の目標値を10ポイント以上上回っている。しかし、個人差が大きく、学習内容が定着していない児童もいる。   | ・既習事項の指示語「この」「その」の区別の理解ができていない。  | ・生活場面を想起させ、相手意識や目的意識をもたせながら学習を進めていくことで言語の生活科を図るようになる。話し合い等の会話の中で、こそあど言葉を意識させて指示語等の言葉の働きや種類をつかませていく。   |
|       | 六年                    | ・区の目標値や、全国平均を上回っている。（区68.7 全国77.3 校内79.3）大体の児童が漢字の読み書きの知識の習熟ができています。   | ・漢字の読み書きの知識の習熟が高い一方、主語や述語、修飾語、敬語といった言葉の学習の習熟が若干弱い。特に連用修飾語の正答率は62.7と、区の目標値65.0を下回っており、修飾語の指導が必要である。               | ・その単元での学習でのみ言葉の学習を習熟させようと思うと、無理がある。朝の学習など、知識を再確認する時間を設定し、繰り返し、繰り返し指導していく。   |
|       | 一年                    | 音読には意欲的に取り組み、ゆっくと大きな声で読める児童が多くなってきた。しかし、物語文での登場人物の行動や気持ちを読み取ったり考えたりすることに難しさを感じている児童が見受けられる。                            | 音読をする力は身に付いてきているが、文章中の細かな内容を想像しながら読むことに難しい児童がいる。<br>また、説明する文章では、文章中から読み取らず、写真や挿絵から内容を考えてしまう児童も見られる。              | 音読をする時には、言葉のまとまりや場面の様子を考えながら読み方を工夫できるように指導をする。<br>文章の読み取りと同時に、自らの考えも表現できるように、ワークシートを工夫し、文字で書き表せるようにする。  |

国語

思考・判断・表現

|    |  |   |   |
|----|--|---|---|
| 二年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>音読に意欲的に取り組み、登場人物によって読み方を工夫することができる児童が多い。</li> <li>登場人物の行動から心情を想像して読むことができるが、自分の思いが先行してしまう児童もあり、叙述に沿って読むことには課題が見られる。</li> <li>説明文などでは、文章中の大事な部分を見付けることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の場面を想像しながら読んだり、友達の前で発表したりすることに苦手意識をもつ児童もいる。</li> <li>説明文では、短くまとめたり、書き抜いたりすることへ難しさを感じている児童もいる。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子を考えながらゆっくり読むことや相手を意識した音読になるよう指導していく。</li> <li>物語文では、登場人物の心情等が捉えられる場面に線を引いたり気持ちを書いたりすることで、叙述に沿って読むことができるようにする。</li> <li>説明文では、本文から聞かれていることを探して書く活動を継続的に行っていく。</li> </ul> |
| 三年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>読解に苦手意識があり、文章の内容を正確に読み取れない児童が多い。</li> <li>問題文を正確に読みとることができず、正答できない児童が多い。</li> <li>説明文の構造を捉えることに慣れていない児童が多い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>まとまった文を読むことに苦手意識をもつ児童が多い。</li> <li>問題文を読み飛ばす児童が多い。問題をよく読まずに問題を解くことによる誤答が多い。</li> <li>登場人物の心情、筆者の伝えたいことなどを読み取ることが苦手な児童がいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>説明文の読解では構造的に捉えるようにする。</li> <li>本文から答えを探す活動を行い、文章を正確に読み取らせるようにする。</li> <li>物語文の内容を理解するだけではなく、物語の世界観やイメージをふくらませる活動を多く取り入れる。</li> </ul>   |
| 四年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「ごんぎつね」のような物語を読み、叙述にそって考えていくことにとっても意欲的に取り組んでいる。しかし、叙述から想像して考えを深めることは難しい。</li> <li>問題文の意味を理解することができず、課題に取り組めない、問題に正解することができない児童がいる。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>長文を読むことができず、集中力が切れてしまう児童が多い。</li> <li>説明文では、文章の組み立てを理解することができない児童がいる。</li> <li>問題や課題の意味がわからず、活動自体に取り組むことができない児童が多い。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>物語文では、共感しながら読み、考えを深めるようにしていく。説明文では、話題を明確にし、話の流れをつかませる。</li> <li>書画カメラを活用して同時に活動を進めたり、やることを箇条書きでわかりやすく提示したりする。</li> </ul>   |
| 五年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>読む領域は全体的に目標値よりは上回っているが、資料を読んでそこから自分の考えをまとめる内容で区の目標値より3ポイント低くなっている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット等の資料・データと話し合いを関連付けて考えることが難しい児童がいる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>事象について知識を活用して具体的な根拠をもとに自分の考えの説明をしたり、立場の異なる側と討論をしたりする活動を取り入れていくことが必要である。</li> </ul>   |
| 六年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>区の目標値を1.2ポイント下回っている。(67.1)</li> <li>話し手の意図を考えたり、自分の立場を明らかにしながら話したりすることが苦手である。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>話す聞くの学習に取り組む機会が少ない。</li> <li>話を聞きながら、重要な情報を判断してメモを残すことができない児童もいる。</li> <li>簡潔な話し方がわからない児童もいる。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業に加え、話す聞くの学習を朝学習の時間に取り入れるなど、継続的に指導していく。</li> <li>結論、理由、再度結論で押さえるといった話型の指導を行った上で、活用させ、定着させていく。</li> </ul>   |
| 一年 | <p>音読では、登場人物の様子を想像しながら動きを交えて発表会をすることができた。</p> <p>作文の学習で、自らが体験したことを書く他に、感想など自分の考えもかこうとする児童が増えてきた。</p>   | <p>音読をすることに対して楽しさを感じながら読む様子が高まっているが、声量や速さ等、まわりの人に聞き取りやすい読み方を継続して指導する必要がある。</p> <p>書くことは個人差に応じて、適切に対応していく必要がある。</p>  | <p>音読・スピーチ・発表をする機会等、児童が自分の意見や考えを自ら発表できる場面を多く設定する。</p> <p>書くことに対して苦手意識がある児童に対して、個別に声掛けや指導を行い、自信を持てるようにする。</p>  |
| 二年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>心情を問う発問で進んで手を挙げる児童が多い。</li> <li>原稿用紙に書くことに苦手意識がある児童が多い。</li> <li>読書の時間は、静かに集中して読むことができ、読み聞かせにおいても、関心をもって熱心に聞く児童が多い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>挙手をする児童に偏りが見られることがある。</li> <li>ノートやプリントに自分の思いを書けても原稿用紙となると抵抗感を強く持つ児童がいる。</li> <li>ノートの書き取りに時間がかかる児童がいる。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>全員が答えられる発問を意図的に組み込み、参加できるようにする。</li> <li>組み立てメモを書くなど、原稿用紙に書く前に内容を組み立てられるようにする。</li> <li>個別に声掛けや指導を行い、励ますと共に個々に合った方法を考えていく。</li> </ul>  |
| 三年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>作文に苦手意識がある児童が多い。</li> <li>本や絵本の読み聞かせは集中して聞くことができるが、読書への興味は個人差があり、学年相応の本を選んで読むことはまだ難しい児童もいる。</li> <li>音読に進んで取り組む児童が多い。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得が苦手な児童が多い。また、漢字が増えたこともあり定着していないため、習った漢字を日常生活で使えていない。</li> <li>自分の考えを文章に書いて表現することに苦手意識をもっている児童が多い。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な漢字の小テストや宿題で毎日漢字の学習に取り組ませ、の定着を図るようにする。</li> <li>読み聞かせ等を通して文章量の多い本にも関心を持たせるようにする。</li> </ul>   |
| 四年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>物語文を読むことが好きな児童は多く、「ごんぎつね」や「一つだけの花」には意欲的に取り組んでいた。</li> <li>書く、という作業を苦手とする児童が多く、自身で考える俳句や作文などの課題は取り組むことすらできない児童が多くいる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きをすることができない。日頃のドリルでは定着が図れない。</li> <li>どんな課題でも、具体的な見本がないと取り組むことができない場合が多い。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に漢字テストをして、覚えるという意識をつける。間違えた漢字は練習し、定着を図る。</li> <li>具合物を用意して授業をしていく。言葉だけの指示ではなく、板書して視覚的にも指示が理解できるようにする。</li> </ul>  |

主体的に学習に取り組む態度

|           |  |   |  |
|-----------|--|---|--|
| <p>五年</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語への関心意欲態度は区の目標値を10ポイント程度上回っているが、漢字の習得に苦手意識がある児童が多い。また、読書の習慣が身についている児童とそうでない児童の差が大きい。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字だけでなく文字をていねいに書く習慣が身につけていない児童がいる。知識として字を知っていても、正しい字になっていない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な小テスト等で、漢字語句習得の意欲向上を目指す。</li> <li>・様々な分野の本に興味をもつように本を紹介して感想を交流したり、百人一首で古典的な内容に興味をもてるように取り組んだりする。</li> </ul>   |
| <p>六年</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の書き取りの宿題への取り組み方など、児童によって差が見られる。意欲的に取り組む子はすすんで規定の回数以上練習し、習熟しているが、そうでない子は練習の回数も少なく、習熟もできていない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字練習や読み取りなどの国語の学習に対して、児童により、差が激しい。国語に苦手意識をもつ児童がいる。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりと子供の宿題ノートをチェックし、頑張りを評価する。評価し、意欲づけしていく。取り組めていないに対しても励まし、意欲を高めていきたい。</li> <li>・国語の授業では、ただ読んで気持ちを想像するといった作業的な活動はせず、その物語の面白さにも必ず触れ、国語の面白さを感じさせたい。</li> </ul> |















